

はじめに

当研究所が1952年に創立されて今年で四半世紀を経た。この25年間に創立当初3研究室15名の定員が、今日6倍以上の98名の定員と当初の3研究室のほか平城宮跡・飛鳥藤原宮跡の2発掘調査部が創設され、加うるに飛鳥資料館、埋蔵文化財センターが付設されるなど文化庁の附属機関としては大きな機構にまで発展してきた。これは当研究所創立の目的である多大の資料の所在する現地の利点を生かすとともに、文化庁行政のニーズを先取りし、所員一丸となって業務に専念したことの評価によるものであるとともに、当研究所の事業拡大によせられた文化庁の熱意とこれをささえていただいた各方面の御支援によるものと深く感謝するものである。

当研究所年報も1958年にそれまで出していた事業要覧に研究成果の略報を載せたものにしようということからはじまった。当初口絵2頁、本文42頁しかゆるされなかったが、各号編集者の創意と努力が重ねられて、20冊目の本号は口絵カラーを含めて10頁、本文80頁と充実されてきた。その間に本文縦組から横組に変える論議など今は一つの思い出となっている。この20冊の年報を通覧すれば研究所創設当初の南都七大寺の調査を中心とした活動状況から、飛鳥寺、川原寺等の飛鳥地方の調査、平城宮跡の保存から飛鳥地方保存への発展、町並調査への取組み、埋蔵文化財センターの必要性などの研究所の歩みを如実に物語る貴重な資料となっていることがわかり、年報のはたした役割が大きかったことがわかる。本年から春日野庁舎の移転も軌道にのるなど研究所の将来への発展が予想されるが、従来にも増して各方面の温かい御支援と御鞭撻を願ってやまない。

1977年8月

奈良国立文化財研究所長

坪井清足